

授業科目名	聴覚・言語障害児への支援	単位数	2
担当教員名	太田 眞知子	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)	公立小学校言語障害通級指導教室で32年勤務		
<p>「学位授与の方針」との関係 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>(1) 子どもの心の育ちとことばの発達について理解を深める。  (2) 子どもはことばをどのようにして身につけるかを学修する。  (3) ことばの障害について関心を高め理解を深める。  (4) ことばの障害を改善するにはどのようにしたらよいか考究する。  (5) 「通級による指導」の実際について理解を深める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>人はことばを媒体として伝え合い、語り合い、理解し合うといわれている。本授業ではことばの意義や成り立ちを解説し、ことばやコミュニケーションに問題のある子どもたちの実態や困り感に触れる。また、ことばやコミュニケーションに問題を抱える子どもたちのアプローチとその子どもたちを支える環境(学校・家庭・地域等)の望ましいあり方を学修する。あわせて、特別支援教育の中で「通級による指導」がどのように実施されているか学修する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：講義の全体構想  第2回：言語の概念・定義  第3回：話しことばの特質と機能  第4回：聴覚・言語の生理的性質 (1) 音の聞こえのしくみと生理  第5回：聴覚・言語の生理的性質 (2) 発語器官の構造と機能  第6回：言語の心理的性質 (1) 言語発達の基盤と初期発達  第7回：言語の心理的性質 (2) 周囲の人との関係の重要性  第8回：聴覚・言語障害の本質(概念・定義)  第9回：言語障害各論 (1) 構音障害  第10回：言語障害各論 (2) 吃音  第11回：言語障害各論 (3) 言語発達の遅れ  第12回：言語障害各論 (4) 難聴、その他  第13回：「通級による指導」発展の経緯  第14回：特別支援教育と「通級による指導」  第15回：家庭や地域との連携</p> <p>定期試験</p>			
<p>スクーリングでの学修内容</p> <p>子どもの成長・発達における精神機能の一側面としての「言語」は他の精神機能と深くかかわっており、通常、学校ばかりではなく日常生活や社会生活でも身につけていくことである。この科目では「聴覚・言語についての基本事項の理解」「聴覚・言語障害の発生・持続の要因」「言語障害の指導・支援の方法」を主な柱として学修する。</p>			

言語障害は「しゃべる」という単純な日常の発語運動器の故障と思われがちであるが聞く、話す、書く、読む、考える等言語活動の全てが不可分な関係にあるので、「発語器官の運動」を超えた幅広い内容を取り入れながら学修を進める。

(『資料』を作成し第1回～第15回の内容を横断的に含む。)

#### 教科書

- (1) 中川 信子 (1984) 『ことばをはぐくむ ～発達に遅れのある子どもたちのために～』 ぶどう社
- (2) 久保山茂樹 編著 (2014) 『子どものありのままの姿を保護者とどうわかりあうか』 学事出版

#### 参考文献

- (1) 岡本 夏木 (1982) 『子どものことば』 岩波書店
- (2) 山鳥 重 (1998) 『ヒトはなぜことばを使えるか』 講談社現代新書
- (3) 竹下 研三 (2011) 『ことばでつまづく子どもたち』 中央法規
- (4) 牧野 泰美 監修 (2007) 『言語障害のおともだち』 ミネルヴァ書房
- (5) はやし みこ (2011) 『なっちゃんの声 学校で話せない子どもたちの理解のために』 学苑社
- (6) 文部科学省 (2009) 『特別支援学校学習指導要領 解説 自立活動編』 海文堂

#### 学生に対する評価

スクーリング評価 (25%)、レポート評価 (25%)、科目修得試験 (50%) を総合して評価する。